

「タイ環境学習キャンプ」旅行記 東京経済大学4年/学芸大学サークルちえのわ 柴山真さん

(前回からのつづきです)

その後もバンライでは地元の格式高いお寺に訪問したり、コウモリのたくさん出る鍾乳洞を体験したり、ビックツリーという地元の神社にあたる場所も訪問し、拝殿やおみくじもあつたり木にしめ縄のようなものが巻いてあつたり、日本が少し懐かしくなる感覚になりました。

最後の日の夜はこのキャンプで 1 週間、「パンダキャンプ」でお世話になりましたシリポンさんご家族と地元のカレン族の皆さんのご厚意で、最後の日の夜に音楽晩餐会を開いていただきました。今までにない豪華な料理が並ぶ中、地元カレン族の皆さんとダンくんの演奏と歌に聴き惚れました。タイでは日本の「ふるさと」のように、「満月(ドウアンペイン)」という有名な曲があります。タイ地元の民謡に感動したり、ダンくんの慣れないギターにも声援を送ったり、逆に「昂」や「手紙～拝啓十五の君へ～」をはじめ、日本の歌もプレゼントしたり…と刺激満載なひとときでしたが、カレン族の皆さんが地元の楽器を使って演奏して下さった「満月」は、どこか日本的で、どこか懐かしい響きの曲でした。タイを代表する曲のようで、タイ国民の人なら誰でも知っている歌だそうです。お酒を酌み交わしながら、楽器をいつの間にか持たされて、すっかりパンダキャンプの一因になったような気分で、いつまでも飲んで歌っていた気がします。その先の記憶は朝までありません(笑)

翌日はちゃんとログハウスの中で寝ていたのでよしとして、最後の朝ご飯を食べたらいよいよバンコクまで出発、1 週間近くお世話になったパンダキャンプともここでお別れです。咲ちゃん、ダンくん、パンダちゃん和一応子ども勢で記念写真、その後今回本当にお世話になりましたシリポンさんご家族全員と、今回の参加者の皆さんと一緒に記念撮影。そして、車に乗り込んでバンコクへ。ポタンさんとダンくん、パンダちゃんはそのままバンコクまでお見送りして下さることに。長くお世話になったバンライを離れ、絶対に忘れられない思い出がここに生まれました。



バンコクに戻り、最初の宿泊場所であるラジャバト大学のグランドビューホテルに着きました。ここで本当にポタンさんとダンくん、パンダちゃんともお別れ。またの再会を誓い、御礼にタイの野鳥をかたどったキーホルダーをいただきました。その後は、副学長さんはじめラジャバト大学の学生さんたちと一緒に、ホテルから車で 10 分ほど移動したところにある野外レストランに行き、北部のバンライの味覚の差に若干の衝撃を受けながらも、都会のタイ料理を楽しみました。バンライと比べて染みつくような汗と暑さが体を襲ってきましたが、もう体は暑さに慣れていました。タイでの旅行も後半戦となり、辛さはバンライのときよりも増しているはずなのに平気な顔をして楽しく食べている自分があることはすごく不思議でした。

翌日からはバンコクの観光へ。週末ということもあったので、まずはウィークエンドマーケットへ車で出かけてみることにしました。出発前に国立公園からパンダキャンプへ帰ってきたところで、先にバンコクに帰っていた若林さんと合流、渋滞をかき分けながらマーケットに入りました。お土産屋や地元の物産が一同に集まっている市場になっているわけですが、3000 店舗近くあるこの市場は、地図がなければ絶対分からない迷路で、一人で行動できる時間もありません。楽しく食べ歩きをしていたところ、突然のスコール。安直にも傘も持っていなかった自分は屋根を辿りながらも、集合場所に着くまでには見事にびしょびしょになりました。全員集まったところでお昼になり、市場の向かいにあるまた別の市場(地元の方が集まりそうな古めかしいところ)に行きました。思いっきり間違っただけでなく日本語の案内もあり、途中日本人の方ともすれ違うこともよくありました。ここで各自、屋台で注文してお昼となりました。オムレツのようなものを頼んだのですが、パンダキャンプのときから卵と油たっぷりの料理には変わりなかったのですが、ご飯と合わせるとすごくおいしく、辛さがとても合う料理でした。その後は、時間があまりない中でも、バンコクの観光名所であるワット・ポーと王宮へ向かうことに決め、海外旅行経験がとても豊富な永井さんご夫婦のご案内で行きました。市場からバンコク中心部は地下鉄で結ばれており、若林さんと離れ時間と戦いながらもワット・ポーへ向かいました。「ワット」はアンコール・ワットと同じようにワットは「寺」という意味で、タイの王室寺

院で涅槃の巨大仏がいることから「涅槃寺」と呼ばれています。日本の東京駅にあたる、バンコク中央駅に着いたところで地下鉄は終わり、そこからワット・ポーへとなんとかバスかタクシーを捕まえなくてはいけないのですが、どこを探してもバスターミナルらしきものがない。探しても全然見つからないため、ぼったくり三輪タクシー「トゥクトゥク」に乗りました。先に行き先を伝えて、値段を軽く交渉して乗って 10 分ほどでつきました。到着したところで巨大な塔が姿を見せました。日本でいうところの五重塔が何本も建っていました。お寺の中にある涅槃仏は予想以上に大きくて、金色の色彩で彩られていました。日本だったらガラス越しや柵の向こうにあるはずの極彩色の壁画がすぐそこにありました。お寺を抜ければすぐ先はチャオプラオ川。対岸にあるお寺「ワット・アルンラーチャワラーーム」まで一瞬のクルーズ。五重塔に登り、バンコクとチャオプラオ川が一望できる場所へ。夕方に近づき、暑さが落ち着いてきたところで、もう少しクルージングで川下りしました。突然の都会の中にもお寺がひっそり建っていて、どこか日本にも似た風景があるなあと思いながらも、地下鉄とタクシーを乗り継いでなんとかホテルへ戻りました。

この日はタイでの最後の日の夕飯、タイスキをいただきました。日本のすき焼きをタイに持ち込んだからタイスキですが、日本のすき焼きとは全く異なる物でした。タイ人はタイを抜かして「スキー」と言います。日本人が来たらタイ人は必ずと言っても良いほどこれでおもてなしするようで、タイでは有名という MK レストランヘラジャパト大学の方のご案内で足を運びました。沸いたスープの入った鍋があり、そこに激辛スープや野菜、肉団子、肉があり、すき焼きというよりは寄せ鍋に近いイメージでした。いまいちという声からお酒に合うという声まで様々でしたが、体験できたことこそ意味あるご飯でした。ここで若林さん、えいさんたちともお別れし、タイでのご案内に心からの御礼を全員でしました。翌朝はついに帰国するために朝 5 時ホテルを立ち、スワンナプーム国際空港を後にしました。



ここまでタイ環境教育キャンプについてまとめてきましたが、いかがだったでしょうか。旅行したのはもう昨年のこととなり、記憶が薄らいってしまうのではとも思いましたが、写真を見返す中であの時の思い出がふつふつと湧いてきて、懐かしくもついこの前行ってきたような思いにもなりました。海外に出て、自分の知らない世界を絶対体験していきたいと思い、今回のキャンプに参加を決め、言葉の壁に苦戦しながらも自分の五感をフル活用して、日本とは違う環境で自然の中で当たり前に見える人たちの姿を見て、エネルギーをもらい、バンコク観光以外は日本人がほとんど観光で来ないところばかり行かせてもらい、昨年の中でも一番の思い出となりました。

今度、参加するときにはシリポンさんご家族と英語でちゃんと会話ができたら、ダンクんとパンダちゃんの成長にも期待したいなと思いました。バンライの環境教育実施者のシリポンさん、ボタンさん、1 日高校入学のときにクラスでサポートしてくれたダンクんとパンダちゃん、カレン族のみなさん、タイ語翻訳と一緒に子どもたちとも交流して下さったえいさん、ホテル観察に全力を注いでいた若林さん、INCH の引率で最後までお世話になりましたごみさん、ごめさん、今回一緒の参加者でした伊藤さん、樋口さん、永井さんご家族。またお会いできることを楽しみにしております。学生最後の夏休みですが良い思い出が作れたと本当に思います。マンゴスチンや、ドリアン、バナナほか、タイでしか食べられない果物も南国最高の贅沢でした。誰よりもご飯とコミュニケーションを楽しんで、つかの間のゆっくりできるお休みもここで取れたような気がします。どのキャンプ、スタディーツアーよりも自分のやりたいことがここまで通せてしまうのはやっぱり INCH だと思いました(笑) またいつかパンダキャンプで再会できることを心から願っております。

2015 年 1 月 柴山 真